

第10回企画展

# ザ・避難

—平成の『とんびくず鳶崩れ』に備える—



## はじめに

日本列島に住む我々には、地震、火山噴火や台風など自然の大きな力と遭遇する機会がたくさんあります。自然にとっては至極当然の営みですが、それによって、人やその財産に被害を及ぼすのが自然災害です。その被害をできるだけ軽減する対策のひとつが、危ないとき、危ない所からの避難でしょう。しかし、今も続く伊豆三宅島住民の避難生活を思えば、安定した日常生活に慣れた我々にとって、それは簡単なことではありません。

今回の企画展は、安政の飛越地震をふまえ、同じ規模の現象が現代に起きたらどうなるかを考える材料として、平成の『<sup>とんびくず</sup>鳶崩れ』を想定し、対応について考えました。

自分が生活する地域は、いつ、どこが、どんな危険にさらされるのか、普段から意識し、準備することが必要です。

この展示が、いざという時の避難に備える手だての一助になれば幸いです。

立山カルデラ砂防博物館

2002年10月

●目 次●  
CONTENTS

はじめに	1
目次	2
企画展概要	3
展示会場レイアウト	4
<b>平成の鳶崩れに備える 自分の命は自分で守る</b>	<b>5</b>
1 ビデオ「ザ・避難」	5
2 平成の鳶崩れとは	6
3 平成の鳶崩れ 氾濫シミュレーション	7
4 避難の心がまえ	10
5 デジタル化された現代の情報システム	13
<b>安政の鳶崩れに学ぶ 立山カルデラの大崩壊</b>	<b>16</b>
1 災害の起因「跡津川断層」	16
2 飛越地震と鳶崩れ	17
3 災害後の常願寺川	23
<b>これまでの土砂災害</b>	<b>25</b>
1 地震と土砂災害	25
2 「善光寺地震」に学ぶ	27
3 「北海道有珠山」を考える	29
参考文献他	31
おわりに	32

## 企画展概要

2002年10月12日(土)～12月23日(月)  
立山カルデラ砂防博物館

自然災害と隣り合わせの日本では、地震や台風などに伴う土砂災害が全国各地で、これまで何度も発生してきました。そこには、自然災害の発生メカニズムや土砂崩れ発生の条件など、現代の科学技術でも解明されていない課題があります。

自然災害を最小限にとどめる方法のひとつは、過去に発生した災害の教訓から学び取ることです。

そこで今回の企画展では、今日の日本における地震と土砂災害の状況を示し、安政5年(1858年)の飛越地震と鳶崩れにおける情報収集と避難を紹介し、そして同じ規模の現象が起きた場合の危険について、地域の方々を知っていただくため、大規模な崩壊(平成の鳶崩れ)を想定したシミュレーションCGなどを展示します。

くため、大規模な崩壊(平成の鳶崩れ)を想定したシミュレーションCGなどを展示します。

自然災害から身を守るためには、地域の災害に関する情報を行政が住民に「知らせる努力」、住民が自分の住んでいる土地にどんな危険が潜んでいるか、どんな防災対策がとられているかを「知る努力」が必要です。

災害が予想される時、地域住民には、自分の身の安全を守るための確かな情報を収集し、積極的に行動することが求められます。その中で最も重要なのは“避難”です。日々の暮らしのなかで常に避難の準備を心がけておくことが、とても大切になってきます。

そこで、光ファイバーを活用した「立山砂防防災情報システム」の紹介や、災害時の避難の心得、非常持ち出し品の具体例などについても展示します。

さらに、現代社会で大規模災害が発生した際の住民避難の例として、平成12年(2000年)に起きた北海道有珠山噴火についてもVTRを使った展示を行います。



# とんび くす 平成の鳶崩れに備える

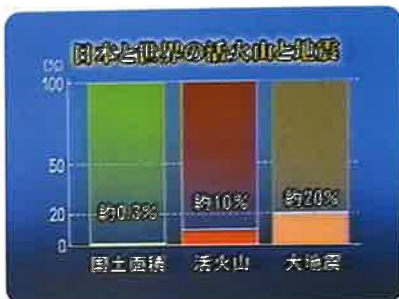
## 自分の命は自分で守る

1

### ビデオ「ザ・避難」

立山砂防工事事務所のマスコットキャラクター・ロココちゃんを案内役に、「多発する日本の自然災害」「自然災害と隣り合わせで生活する日本人」「自然災害への心

構え」「知らせる努力、知る努力」「命を守るための日頃の備えと早めの避難」「21世紀の生活スタイルは災害との共存」といった内容を解説しています。



①日本の国土面積は世界の0.3%にすぎませんが、活火山の数は約10%を占め、大きな地震の約20%が日本とその周辺で起きています。



②自然災害と常に隣り合わせで生活している私たちは、まず自分の住んでいる土地がどんな災害の歴史を持ち、どんな危険が潜んでいるかを知ることが大切です。



③そして「まさか自然災害など起きないだろう…?」という考え方を「もしかしたら起きるかもしれない…!」という考え方に変えることが大切です。



④身近に潜む危険を知ってもらうため情報公開につとめています。



⑤みなさんも自然災害が襲ってきたときは、助けを待つのではなく、自分の命を守るため行動してください。それが避難です。

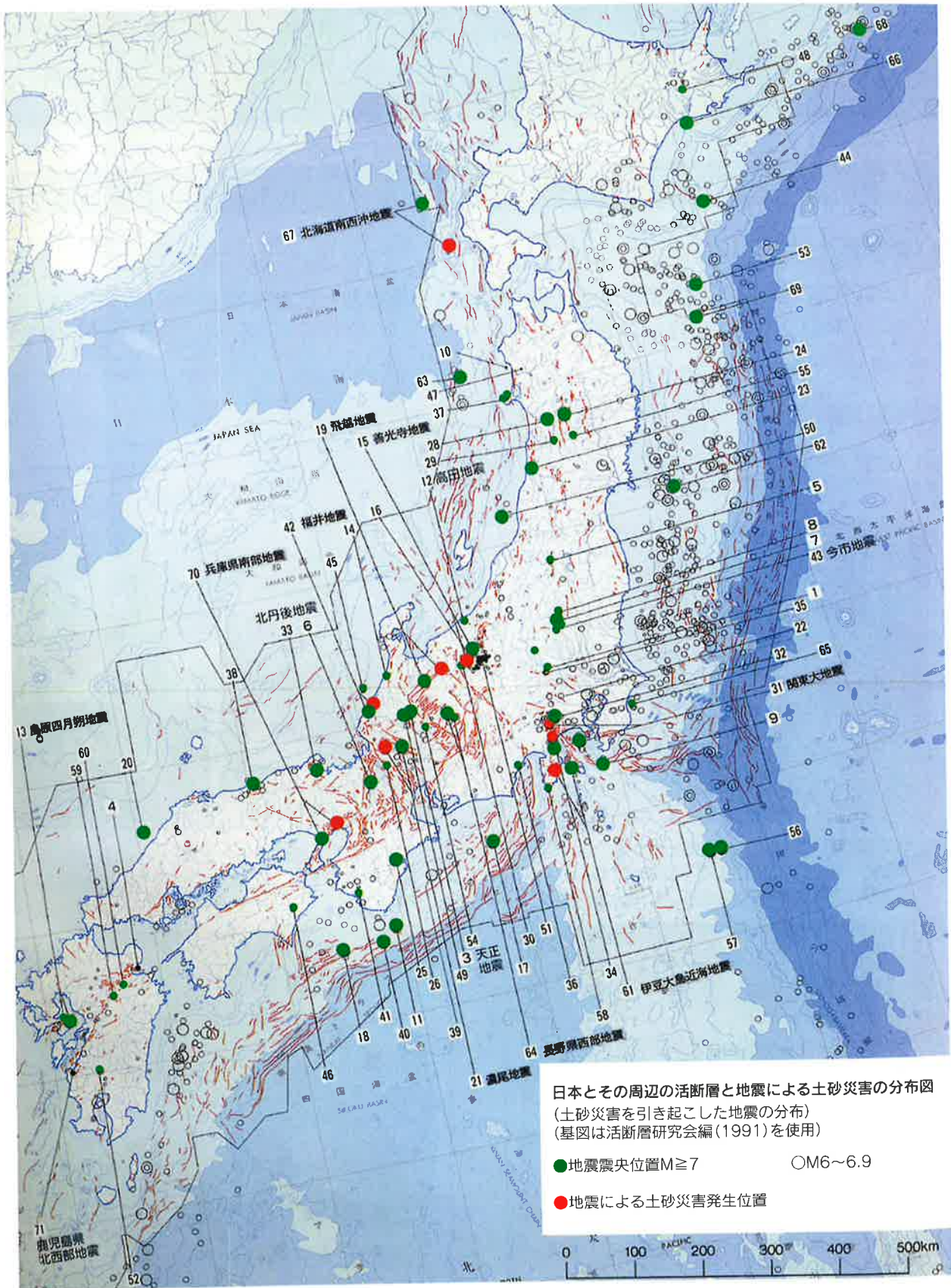


⑥自然災害を完全になくすことは大変難しいことです。

従って日頃から非常用の持ち出し品を準備し、避難路・避難場所を確認しておくことはとても大切なことです。

「災害と共存する生き方」が  
21世紀の生活スタイルともいえます。

# 地震と土砂災害の分布図



日本とその周辺の活断層と地震による土砂災害の分布 (建設省砂防部(1995)に一部追加)

基図は活断層研究会編(1991)「日本の活断層」のデータを使用

資料 地震砂防(中村・土屋・井上・石川 編、2000)